夕刊
磐城新聞
十一月二十二日曇行
定價一ケ月金六拾錢（郵稅金五錢）
發行所　磐城新聞會社
福島縣田村郡三春町大字三春字大町十六番地
電話三春局第十二號
代表者　松本一西
印刷所　磐城新聞會社
福島縣田村郡三春町大字三春字大町十六番地
電話三春局第十二號
（日曜祭日翌日休刊）

現代歌謠詩人の行くべき道と新分野

(2)

中山輝

斯くてレコード歌謠は、ある　ところがそのレコード歌謠なるや、どれもこれも似殆んどと云つてもよい位、民衆とか大衆とかの意志に　たり寄つたり、千篇一律のお構ひなく巷に溢れ、流行　面白くもかゆくもないもの を強ひる（事實結果に於て　か殆んどで甲のA の唄に乙 強いてゐるのである例へば　か丙と署名を書きかへても今月はこれを賣り出さうと　乙のBの謠に甲か丙の名を いふ方針の下に宣傳物を全　署名しても、區別がつかぬ國特約店に配布し宣傳盤を　といふ、いはば個性のない鳴らせ、或は映畫會社とタイアップを組んだりするの　藝術性の薄い、商品化したである）のである。かゝる　歌謠の行列である。この亞流の、またその亞流が歌謠詩人によつて生れようとも　雜誌に横行濶歩する所詮、レコード歌謠としての諸要素に合致してゐなければ聲なき活字のヨウになつて埋れてしまふのである

二

歌ふ歌謠詩人は、このヨウを目ざしたものが滿載されるといふわけである。第一早く金になつて、昨日の無名、一躍けふの有名になれるといふスピード時代にふさはしい功德に誰しもありつきたいのが人情であるからである。そこで愈々本格的の歌謠が肩身を挾まくして消え去らうとする。華やかなレコード歌謠作家の活動ぶりをみては報ひられぬ本格ものを書いてゐる馬鹿さ加減が誰も彼もの全身を占領するといつた形で

今日に於て、本格的の歌謠詩人によつて生れようとも所詮、レコード歌謠としての諸要素に合致してゐなければ聲なき活字のヨウになつて埋れてしまふのである

二

心ある歌謠詩人は、このヨウを目ざしたものが滿載されるといふわけである。第一早く金になつて、昨日の無名、一躍けふの有名になれるといふスピード時代にふさはしい功德に誰しもありつきたいのが人情であるからである。そこで愈々本格的の歌謠が肩身を挾まくして消え去らうとする。華やかなレコード歌謠作家の活動ぶりをみては報ひられぬ本格ものを書いてゐる馬鹿さ加減が誰も彼もの全身を占領するといつた形で

▼——▲
▽——△

童話……洪水の夜

長谷川央

中

『今晩は』お母さんが廣い障子戸をあけていふと『へーい』といふ聲がして赤黒く光る頭のはげた柚子だね、さあ上つておやすみの實のやうなおばさんだらけ……』

その年とつた坊さんが精二たちの前にあらはれた。薄氣味が惡くなつて、精二はお祖母さんの手にかぢりついた。小さい妹は泣きさうな顔になつてお母さんの袖の蔭にかくれるやうにして小さくなつてゐる

『お上人様どう〳〵家も駄目でね、今夜は一晩泊めて下さい』

とお願ひをすると

『困つたことになつたね、はいりなさい。きあいゝ子布團が敷いてあつて、そばにお經をあげる時鳴らす木べたくなかつたのではさんでくれても手を出さなかつた

そのうちに兄妹は眠つてしまつた。お祖母さんは二人をねかせて、そおつと、家を見に行つた

▽……△

のわきの廣い座敷だつたがた

小母さんがお茶と、南瓜の煮たのを大きなどんぶりへ一杯盛つて出してくれた

お祖母さんは、おいしい〳〵といつて幾つも頂きましたが、精二達はあまり食べたくなかつたのではさんでくれても手を出さなかつた

そのうちに兄妹は眠つてしまつた。お祖母さんは二人をねかせて、そおつと、家を見に行つた

▽……△

佛様のかざつてある本室

佛像は佛像がぴか〳〵暗い中で光るのをとても怖さうにして眺めてゐた。佛様や佛へ一杯像の並べてある段々のある前に大きな坊さんの坐る座布團が敷いてあつて、そばにお經をあげる時鳴らす木魚と金丸があつた

精二はその可笑しな形をした木魚を、ぽん〳〵もく〳〵とたゝいてみたり、こしまつた。お祖母さんは二人をねかせて、そおつと、家を見に行つた

▽……△

黄金魔及

(11)

高桑義生作

樋口悦也畫

雁の旅　(二)

『御免下さい』

と女はしやア〳〵としたものだ

一行八人は、無言で女の顔を睨んだ。或者はズッと爪先まで見おろした。女房風の粋な姿で、ぞッとするやうないゝ女だ。どうしたつてこの真夜中の山の中と武士は更に聲をとがら

怪變化、よくつて狂女と思つたのだが、まさに人間、しかし途方もない別嬪なので、いゝ氣になつて話かける。何なら手でも引てやりたい位だ

『しかし、そんな差迫つた御用といふのは？』

『あ……』

と女は口ごもつた

『いへませんか？』

『いゝえ、さうぢやありませんが……』

はづかしさうな、それがまたなくあだッぽい

『では、何か？』

疑ひをもつた詰問調子。

すると

『あの、旅先で良人が急病

講談

雪の日〳〵

○

毎朝、眞白な霜に初冬の日射しもしみらにないて、このごろか春日和がつゞく——

謹告

店舗改築の爲め十一月廿一日ヨリ向二十日間位左の所に假營業所を開設致し從前通り營業仕り候間御不便を相掛け申譯無之候へ共何卒當分の間其處に御出の程を伏して御願申上候

十一月十九日

假營業所　大塚運動具店向

敬具

大床石崎理髪店

各位

出賣服通學服の冬

中等生用

國防色　6號……4.00　7號……4.20

黒小倉　特A6號……3.80　ヨリ
A 6號……3.50　ヨリ
B 6號……2.00　ヨリ

別注文　國防色……5.50　均一
黒小倉……6.20　均一

ふかや洋服店　平三電208

耳鼻咽喉科專門

高柳醫院

平驛前（電三三六）

醫學博士　高柳博明

（入院應需自炊ノ便アリ）

高久病院

平町田町（電話五三一番）

醫學博士　高久忠清
新潟醫學士　赤羽久
藥劑士　佐竹菊雄

內科　小兒科
外科　花柳病科
耳鼻咽喉科
レントゲン科

夕刊

父

好間　伊藤寒山子

稻負うて倒るゝ父をはるか見し
稻に伏す父を見るより涙湧く
稻に伏す色なき唇の息はげし
稻架のかげ病み伏す父をかきいだく
汗の額秋日に照れど病める色

與客夜坐（其の一）

珠雲　小野務牛

一宵四十閲年情
竹馬鳩軍似弟兄
談笑連綿與無盡
献酬不覺聽鷄鳴

詩：想像

大竹秋平

私は部屋へ入る
奇異な感激や好奇心や憧憬を感ずる……
私がそこを去らうとする時
黒い眼の一對が南の星のやうに煌くのを見た
あゝ彼女の口元は微妙だ
彼女の頬に接吻の麗はしい極印がついてゐる
彼女の首は象牙色に白いものだ
彼女の言葉をかける
『何處かでお目にかゝりましたね』と私は彼女に顔を瞑
彼女は私に答へるやうに風の
感じる
『想像にもてあそばれてつ

黄金魔及

(11)

高桑義生作

樋口悦也畫

雁の旅　(二)

『御免下さい』

と女はしやア〳〵としたものだ

一行八人は、無言で女の顔を睨んだ。或者はズッと爪先まで見おろした。女房風の粋な姿で、ぞッとするやうないゝ女だ。どうしたつてこの真夜中の山の中と武士は更に聲をとがら

怪變化、よくつて狂女と思つたのだが、まさに人間、しかし途方もない別嬪なので、いゝ氣になつて話かける。何なら手でも引てやりたい位だ

『しかし、そんな差迫つた御用といふのは？』

『あ……』

と女は口ごもつた

『いへませんか？』

『いゝえ、さうぢやありませんが……』

はづかしさうな、それがまたなくあだッぽい

『では、何か？』

疑ひをもつた詰問調子。

すると

『あの、旅先で良人が急病

的現代

柴山流盤景教授

一、材料器具が安く何回でも使はれる。
一、練習二三回の初心者の作品でも直に床の間を飾るに充分である。
一、一週間一回六ケ月で修業出來る。
一、繪畫の素養全く無き老若男女となたにも習得出來る。

修得短期
經費低廉

柴山流盤景師範　高橋光山

平町白銀町
電話六三八番

洋服大特賣

男女用學生冬服豊富に取揃

洋服は高島屋

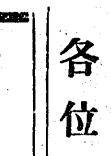
注文並に既製品

高島屋洋服店

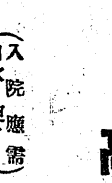
平町二丁目電話三八六番

諸判定應需
東京市本郷區湯島四丁目五番地
高島易斷總本部　神誠館

▲一白　良き種をまきて一づゝ芽ばいの利益を收むる日▲二黒　人を信に過ぎてまん當せられ何いぬに手をかまる▲三碧　一旦の失敗は再起覺束なきに至る注意肝要▲四綠　喜悦夫第に加はり來れども契約金襲に注意▲五黄　依頼心を起し期待に反かれ却て窮境に入る▲六白　事毎に動えうげしく浮沈多かるべし起業大凶▲七赤　一本橋を渡り切らんとして足をふみ外す如し▲八白　柴途を期して空想に終る直面目なるが吉▲九紫　新計畫は見合せ當業に努むれば利益高倍す



舊十月　新十一月　廿二日　友引　大安
舊十月　新十一月　廿三日　先勝　女宿



舊十月　新十一月　廿四日　甲辰　執　盧宿
舊十月　新十一月　廿五日　乙巳　破　危宿

▲一白　萬事穩便なる行動に出づればとがなし急進凶▲二黒　野心を去り空想に走らず定業を確保すべし▲三碧　飛び出して猛飯にうたるゝ鳥の如し安靜吉▲四綠　事業は成功の過程に入るべきも焦るは大凶▲五黄　妄擧は不良にかたむく才力以上の企てを控へよ▲六白　人の爲めに盡力し從ひ後目報はる喜あり▲七赤　足の疲れも薄らぎて行旅平穩となりし如し▲八白　心ゆるやかに諸事を取り廻すべし病厄は注意▲九紫　過むに過ぎてつゝしみあり分を守りて謀を盛せ

磐城共濟病院

（福島縣平町電話六四一番）

內科　醫學博士　院長　石山謙郎（電話六四一番）
小兒科　醫學博士　部長　岩手醫學士　佐藤尚輔
產婦人科　醫學博士　部長　黒澤廣
外科　醫學士　部長　大町久藏
耳鼻咽喉科　醫學士　部長　前澤正（電話二七二番）
皮膚泌尿器病科　醫學士　部長　花柳病科　醫學士　X線科　醫學博士　技手　石山謙彪
療物藥局　藥劑士　局長　吉本孝平
事務長　鈴木寶雄

◎每日午前八時ヨリ午後十時迄診療
◎病室完備　入院隨意

產婦人科　花柳病科

井坂醫院

午前宅診
午後往診
入院應需

平町田町（元合津醫院跡）
電話五五九番

廉賣奉仕!!

牛肉ノ部　極上ロース百匁金六十錢　上肉同金四十錢　並肉同金三十錢
豚肉ノ部　極上ロース同金五十錢　上肉同金四十錢　並肉同金三十錢
櫻肉ノ部　ロース百匁金二十二錢　上肉同金十八錢　評判ノ部　カツレツ一ケ金拾錢　コロッケ六ケ金拾錢
配達ハ迅速ニ致シマス。

一丁目　武田肉店

蓄音器への課稅は大衆娯樂を奪ふもの

飽迄撤回に努力して欲しいと

石城の組合から陳情書

現今の蓄音機は所謂有閑階級の娯樂機關に非ず下層の農山漁村民乃至炭礦從業員等により極めて低廉簡便之により終日の勞苦を慰し明日の活力を養ふ上に於て適當なる慰安の伴侶に有之、今後課稅の重壓によつて之種階級より蓄音機を奪ふ事は社會政策上考慮を要するものと信じ疑はざる次第に存じ候、翌くは貴下の深甚なる御同情御理解により該稅撤回の爲に絶大の御援助を相仰ぎ度茲に謹て及陳情候也

石城郡内各町村長殿

石城郡蓄音器組合

組合長　室橋光

財源に飢えたる縣當局により つて血祭りの犧牲に上せられた蓄音器稅の新設は簡易なる大衆娯樂を根本より奪取するものとして全面的に多大の衝動を起してゐるが縣下同業組合石城支部では部會長高倉精一氏の名を以て左記陳情書を縣選出縣會議員其他各方面に送り大に輿論を喚起する事となつた

陳情書

本縣が昭和十一年度の豫算編成に方り新財源として蓄音機稅を設定せられたるは大衆生活の現狀より觀て直に遺憾に堪へざる次第に存じ候、惟ふに現在の蓄音機は所謂有閑階級の娯樂機關に非ず下層の農山漁村民乃至炭礦從業員等により極めて低廉簡便之により終日の勞苦を慰し明日の活力を養ふ上に於て適當なる慰安の伴侶に有之、今後課稅の重壓によつて之種階級より蓄音機を奪ふ事は社會政策上考慮を要するものと信じ疑はざる次第に存じ候、翌くは貴下の深甚なる御同情御理解により該稅撤回の爲に絶大の御援助を相仰ぎ度茲に謹て及陳情候也

平商校新築陳情

現前の危險に鑑み

出身先輩立つ

平商業學校の改築問題は過般來關係各方面から叫ばれ町でも補强工事として明年度豫算に工費三千圓を計上する筈であるが今や腐朽はその極に達し一朝暴雨風等に際する危險は甚しいので同校商友會長室橋光氏外代表者は今二十二日町役場に青沼町長を訪問、左記陳情書を提出猛運動を起す事となつた、右につき青沼町長は語る

町としても前々から考慮し、來年度に補强工事をすれば五、六年は大丈夫だと云ふからそれから今後の方針を考へるつもりだつた、縣移管も實現すれば總工費十萬圓位で實現したいものだ、先づ豫算と敗地の選定が先決問題であらう

陳情書

母校平商業學校はさきに平町が時勢の進運と時代の趨向とを洞觀し、且又本町が漁業地帶と炭鑛地帶とに介在し產業に富み商工業は振興を加へ、常磐線唯一の市街地たるの素質を有するに鑑み、商業教育機關として設立せられたるものにして爾來二十三年、現在生徒定員五百、卒業生は一千名に垂んとして濱街道唯一の斯道教育機關（中略）本校は明治三十四年の建造にかゝり磐城中學校が來文化」と題する氏が多年高月台に移轉するや之を研鎖の溫醲奥きもの又會員小學校校舍の一部に充當の研究發表には左の二氏が

全町民結束して國の鎭めを送る

昨日聚樂館の盛況

平町今年度の入營軍人三十十一日午前十時から縣社子三鍬倉神社に於て山部神官に より奉告祭を執行同十時半より聚樂館に於て開催（送餅）靑沼町長　同町村長會支會長　藤井在鄕軍人分會長（來賓祝辭）野崎縣議　鍋田區長代表

篠山第一校長と尺八の鶴田旭窓師の詩吟傳授あり盛況裡に一時散會

小學教員會

小池師範教諭講演

昨報—郡下小學校教員會秋季總會は明後二十四日午前十時から平第一校に開かれるが、師範校教諭小池元吉氏の講演は『大和民族と外來文化』と題する氏が多年高月台に移轉するや之を研鎖の溫醲奥きもの又會員小學校校舍の一部に充當の研究發表には左の二氏が

昨報—郡下小學校教員會秋季總會は明後二十四日午前十時から平第一校に開かれるが、師範校教諭小池元吉石城販聯の俵米定期共販は

新米の出廻りから地方米價落調

きのふ俵米定期共販

昨二十一日行はれた、出荷約十錢安、今後本格的に出廻ると共に漸次落調を辿るものと見られてゐる

日の丸行進其他で納稅觀念を强調

平町各小學兒童を動員

平町の隣接村合併交涉は既報の如く平窪、內郷、飯野を了し一昨二十日行つた好間村も戶數割其他炭鑛地帶を擁してゐる關係から反對をほのめかしてゐるものゝ如く來月中旬頃村會にかけて是非を決定するとの言質を得て一たん引揚げ未交涉は神谷一村になつた

平進を除く外は何れも急速な解答を躊躇してゐる同町中町の琴曲指南遠藤佐處からこれが向背を決定喜野師方に於て開催される靜久會の發會記念三曲演奏會する各村の村會結果は各方面から注目されてゐる

隣接村合併交涉着々順調に進行

最近の平町市制準備

平町の隣接村合併交涉は既決定した

『小學校に於ける職業指導』湯本岡部政一『解釋學の根據と適用』小名濱中根武夫

靜久會創立　平町琴古流尺八の第一人者たる小野靜童師の門下よりなる靜久會の發會記念三曲演奏會は明二十三日午後一時より同町中町の琴曲指南遠藤佐喜野師方に於て開催される靜久會の顏觸れは辯護士大瀧庫氏を始め山本、新谷、沖原、高清水各醫師、敎諭、安藤金次氏その他で當日の演奏曲目は若菜

明二十三日より三日間の納稅デーに際し平町各小學校では之が徹底を期する行事に關し打合せを行つたが各校全學年生に圖畫、書方、綴方を作製せしめ、又最終二十五日には後記行程により日の丸行進を行ひ町當局の運動と相和し趣旨の强調を圖る事になつた

成績品は二十五日迄に之を製作圖畫（ポスター）書方は各學級一點優秀のものを選出、之を町役場會議室に陳列一般に公開しその他は家庭に回覽する、綴方の優秀なものは平の敎育に揭載その他は家庭で揭示せしむる、書方の文字は一年—ナプゼイ、二—をさめよ稅金　三—忘るな納稅　四—果せ納稅働け家業　五—租稅完納家內和合　六—完納光

明滯納暗黑　高一—明るい家庭に輝く完納　二—現在縣廳へ提出されてゐる納稅第一我が家の家憲　出願は二百名、締切り日までであます期日十日間である十六日午前九時よりマルトモホールで開催交換卽當等を行ふと

要員に滿たぬ明年の海兵志願

締切を一ケ月延期

本縣の明年度海軍志願兵割當人員は一千八百八十名で志願書提出の期限は十一月三十日までになつてゐたが同好者より成る蘭萬會は二外に同じく店員と稱する三十才位、洋服に黑のオーバーストをかぶつた男も同伴してゐたので此奴も何等かの連絡あるものらしく去る十六日小名濱海岸に來た事實も判明した

石城蘭萬會

廿六日マルトモで

地方に於ける蘭と萬年青の二葉商會店員と詐稱して

共犯關係か

同行の怪い男

幼兒を傷く

荷馬車

きのふ赤井村で赤井村大字赤井荷馬車挽業明智銀藏（四三）は二十一日午後二時半頃荷馬車をひいて同村大倉地內村道を通行中前方で遊戲中の同村桑淨幸雄（六）を誤つて車にひきかけ足部其他に全治二週間の傷を負はせた

恩賜鄕倉　郡內の恩賜鄕倉は今春四月から着工、現在迄竣功したものが四十四ケ所未完成村左の如く二十ケ所あるこれらも間もなく竣功する

署の鼻先で塗換えの豆自動車に神經尖る

思想犯に關係の怪事件

お尋ね者下小川村生れ加藤甚一

昨報—東京市下谷區下坂東町近藤自動車商會から借り受けたダットサン（時價千八百圓）を乘逃げして濱街道を通過したと云ふ下小川村字關場生れ加藤甚一（三五）の捜査に屬起となつてゐた昨二十一日夜六時半頃、それも平署の鼻先の十五丁目石山看板店で該豆自動車（警視廳ナンバー一二、九六三號）の車体塗りかへをしてゐる二人連れの男ある

七五三御祝着と冬衣大賣出し

吳服は今が御買時、生絲値上り前の最廉價品を豊富に取揃へ更に大奉仕!!

十一月二十三日ヨリ七日間

…特別サービス…

可愛らしいお子樣の晴着を召した、健やかな御姿を永久に記念として縣社子鍬倉神社の大前にて

十五圓以上の御買上　手札形三枚一組

三十圓以上の御買上　キヤビネ形三枚一組

記念撮影呈上致します。

見習小店大募集員（御申込次第參上）

平町　三井吳服店

電三八。二八四

季節向御料理

毎度格別なる御贔屓に預り難有御禮を申し上ます

弊店獨特の季節向御料理と致しまして此度は純江の島料理を始めました何卒御尊來御試食を賜り度伏して御待ち申上げます。

◎江の島料理　珍味江の鍋共五品　金壹圓五十錢

松　御一人前

竹　同　金壹圓貳拾錢

梅　同　金壹圓

每日獻立差替調理致します。

豫て御好評のヒナ鳥

◎水たき

◎鯛茶

御婚禮、忘年會、新年會は特に御相談に應じます。

割烹　住吉屋本店

電一五九番

盜青年新京で就縛

拘禁先で脚氣を發病

照會を受けた親許で困惑

內郷村字濱井場坑夫政治二男石井義則（二五）は去る七月三日夜東京市神田區須田町親元通知方を依頼して來た二丁目廣瀨啓次郎方から現金二百餘圓在中の金庫を盜つて拂つて渡滿、此程惡事が渡滿出來ぬと少からず困り新京で發覺取調べ脚氣のため目下同院に入院治療中で

川前　入遠野　澤渡　田方女中渡邊フミ（一七）は去月二十九日夜客の腕時計を窃取した外前借三十三圓を踏倒して逃走、鄕里へ歸ひ戻るらしいからと金子から平町倉町飮食店金子熊五郎署に捜索願